京王電鉄杯参加報告書

報告者　川井　剛（中体連）

４月６日（土）９：３０～
エスフォルタアリーナ八王子
CC：田中(北海道Ａ　ブロック推薦)　U1：寺田（島根　フレッシュ）　U2：川井
対戦カード　専修　対　慶應大

《PGC について》

事前に田中さんから資料をいただき共有
・レフリングの考え方
・プレイコーリング（20 個ほどのクリップ）
当日、ホテルのロビーにて顔合わせ、一緒に会場へ。
・開場時間が 8:30 だったので、開場まで外でメカについて確認。
・開場後、着替える前に新ルールについて確認。
・スプリングキャンプにて映像を撮っていた専修について情報共有。パンフレットから身長や人数などを把握。
・自分のプライマリーを確実にすること。
・クルーワーク（ファウルカウント、シューター、クロック）をしっかりすること
集まらないといけないケース

≪ゲームの実際≫

・序盤から CC の田中さんが慶應のハンドチェックを中心にテンポを作ってくださった。一生懸命守ろうとする慶應へのメッセージが伝わり、ベンチからも手についての指示が出るように。
・その中で両チームともに体勢を崩しながらショットに行った際、手にヒットしたとのアピールがあったが、自分のプライマリーの中で判定できないところがあった。
・ポストのリバウンドファウル、ポストプレイで腕を巻くディフェンスについて、Ｔからいいアングルが取れて判定につなげられ、そこから少しずつ自分のリズムが作られてきた。
・その際、Ｌ・Ｔでダブルでなった際、アイコンタクトが不十分でトレイルの自分がそのままレポートに行ってしまった。
・前半の終わりに向けて、慶應のディフェンスが手を使わないようになってきた中で、ボディーのコンタクトについてマージナルなものを鳴らしてしまった。しまったという思いがノイズとなり、レポートに行った際にファウルされた選手のナンバーをレポートしてしまった。CC の田中さんが気づいてくださり、訂正してくださった。
・ゲームコントロールという面で前半に印象的だったのは、ファウルコール後に選手がプレイをやめず、ボールを返さなかった場面である。いろんな面で専修のキーになるプレ

イヤーだったこともあり、CC の田中さんがすかさずプレイヤーにワーニングをされた。クルーワークとして、その場面を見ていたので田中さんとアイコンタクトをし、自分がベンチに伝えに行った。自分がその現場にいたら、ワーニングまではできていなかったと思う。しかしあの場面から、選手の協力的な態度やこちらの判定を聞き受けてくれる雰囲気ができたように感じる。

- チームファウルのことや点数について、TO のミスが数回あったので、後半は特に TO 管理をもっと目を配ること、積み上げたテンポを崩さないこと、前半のテンポから後半に起こりそうな現象や気になる場面の共有をして、後半に臨んだ。
- 後半は、ジワジワと点差が開き始めた。その中でも、前半に保ったテンポを崩さないように心がけた。U1 の寺田さんとダブルでなった際、ハーフタイムで確認することができていたので、アイコンタクトをし、コミュニケーションをすることができた。また、ファウルカウントのコミュニケーションも、前半より上手く行った。メカの不具合からダブルＬになるケースがあったが、Ｔが合わせ、気づいたクルー間で修正したので、何事もなく進められた。後半は、T からニューC にローテーション中に、FT ライン付近で起こった現象を情報が薄く判定することができなかったところがあった。ブロック・チャージについてはＬから、ショットに対するヒットについてはＴから田中さんに鳴らしていただいた。自分も捉えられる、プライマリーの重なる部分だったので、少し後悔した。
  - 前半もだったが、このように「しまった」と思うことがあっても、次のことに意識を向けて切り替えができるようになったのは、これまでの修行の成果だと思った。
  - 前半のテンポセットもあり、後半はスムーズにゲームが進行した。点差が離れてきたが、最後までクロックやファウルカウント、FT シューター確保を意識することができた。

≪ゲーム後≫

クルーミーティング

見ていた方の感想

- TO がなかなか落ち着かなかった
- 前半のワーニングが効果的だった
- 抑えるべき選手に必ず目が当たっていて、スムーズだった

CC の田中さんから

- お互い中体連というアンダーカテゴリーなので、大学生のフィジカルレベルを理解してイリーガルかマージナルか、見極めが大切。選手の反応も中学生とは違うからノイズになりがちだが、コール後に慌てることなく落ち着いて、一つ一つしていくともっと良い。
- トータルして、細かい部分はあったかもしれないが、選手もよくゲームに集中し、協力的だった。
- プライマリーもあるが、鳴らすべきものに誰かが鳴らしていたので、ゲームとしては問題なかった。

≪全体を通して≫

昇格が決まってからの日々は，正直苦しい日々だった。自分の力のなさを痛感し，悩む毎日を過ごした。その中で，今回の京王杯に向けて様々な修行の場を設け，多くの先輩方や仲間に助言をいただきながら，「今の自分に出来ることはなにか？」をしっかりと自覚するようになった。

今の自分は今回の報告でもある通り，まだまだ改善しなくてはいけない部分が多々あるが，それも含めて，自分のストロングポイントもウィークポイントも知り，研鑽を積む日々を過ごすことが大切だと気づかされる期間となった。また，自分が学んだことを県内や九州に還元するためには自分がどう行動すべきか？ということを，考えさせられた期間にもなった。

今後も今の気持ちを忘れず，自分のやるべきことを理解し，自身のレベルアップ，県内や九州への還元のために尽力していきたい。

今回の審査会において多くの方々のご支援，サポートがあった。多くの方々のおかげで自身の審判活動ができていることを常々念頭に置いて，今後も活動を続けていきたい。